

認知症初期集中支援チーム活動における課題

1 重症化した後の介入

早期発見・早期対応により、認知症の重症化を予防したいが、認知症が悪化し、在宅生活が困難な状況となって相談に至るケースが多い。

2 介護事業所との連携と役割分担の明確化

(1) 市民は、地域包括支援センターへ相談し、地域包括支援センターで状況を把握・対応することが多く、対応が困難な場合に初期集中支援チームへ相談がある。

全てに対応することは難しいが、介入当初から一緒に同行訪問し複数の視点でアセスメントすることができたら、よりスムーズに支援につながるのではないか。

(2) 認知症初期集中支援チームと地域包括支援センターとの役割の違いが分かりにくく直接相談の件数が伸びない。

3 支援体制継続の困難さ

早期に初期集中支援チームが介入し、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所につないでも、介護サービス利用につながらなければ、そのまま関わりが途絶え、次に初期集中支援チームの相談があった時には、重症化していることがある。